



Obihiro Aoi Gakuen Information

学校法人 帯広葵学園

学園通信

◆2021年（令和3年）6月18日発行

◆Vol.47

故きを温ねて、新しきを知る
～帯広葵学園のあしあと～

（平成28年5月30日 十勝毎日新聞）

平成28年は転換期…話題その1

学校法人帯広葵学園

理事長 上野敏郎

平成28年、帯広葵学園は大きな転換期を迎えます。その代表的なものは、4月から正式に帯広の森幼稚園とつじが丘幼稚園が、文部科学省や厚生労働省ではなく内閣府のもとで運営する「認定こども園」に移行したことです。国が新しく定めた「子ども・子育て支援制度」の基づく幼稚園になったということです。その違いを短く説明するば、幼稚園部門に保育園部門を一つの幼稚園の中に取り入れたとなります。

新しい国の制度ですから多少の戸惑いもありました。例えば、入園手続きです。これまでは、すべて幼稚園と保護者との関係でしたが、今度は保育園部門は行政が入園を決定することになったのです。

二つ目の出来事は、支援の必要な子どもたちのための療育型通園教室「あおいとりプラス」を緑陽台と帯広に開設したことです。この教室は、障がいを持つ子どもたちを対象に、日常生活に必要な基本的動作の指導などを行うところです。

帯広葵学園に通う子どもたちは、みんな元気に小学校の門をくぐって欲しいと願っています。障がいを持つ子ども持たない子ども一緒にです。そのために帯広葵学園に何ができるかをこれからも考え、実行していきます。

帯広葵学園 療育型施設「あおいとりプラス」

【音更】学校法人帯広葵学園（上野敏郎理事長）が運営する「療育たいせつ型 あおいとりプラス緑陽台教室」（町緑陽台仲区35ノ5）が、6月1日に開設する。児童発達支援と放課後等デイサービスの機能を兼ね備えた場所で、学校法人による運営は十勝で初めて。発達に遅れのある子どもを対象に個別対応型の療育、教育支援を行う。

児童の発達障害 個別支援 放課後デイサービスも

教室名は、財団法人「子供たちの未来をひらく父母の会」が子ども専門病院を設立する資金集めの一環で販売した「青い鳥マッチ」に印刷されるシンボルマーク「青い鳥十字」が由来。同法人が運営する緑陽台保育園の南側に位置する木造平屋建ての賃貸物件「グランデール緑陽台」の1室（81.15平方メートル、3LDK）を借り上げ、開設に向けた準備を進めている。

児童発達支援は2歳から就学前、放課後等デイサービスは小・中学生を対象とし、利用を希望する家族の相談を受けて作成した個別支援計画に基づく支援を行う。具体的には、木のブロックをひもに通したり、イラストを見て文字を並べ替えたりする簡単な遊び、外に出ての運動、教材を使った勉強などその子に見合った目的環境を提供する。同教室のサビスマ管理責任者で、帯広市教育委員会の心の教室相談員を務めた村上敏克さん（66）をはじめ、幼稚園や小学校教諭の免許などを持つスタッフが4人体制でサポートに当たる。

利用できる時間帯は異なる。定員は1日10人。1回のサビスは1時間。自宅までの送迎あり（放課後等デイサービスは学校への出迎えと給食付き）。休みは日曜、祭日、お盆年末年始。利用料は国が定めるサビス利用料金表に準拠する。見学も受け付けている。

（小縣大輝）

十勝毎日新聞



学校法人 帯広葵学園

〒080-0022
帯広市西12条南17丁目3 難波ビル2F
TEL 0155-23-7604 / FAX 0155-67-5778
URL <https://www.obihiraaoi.ed.jp/>



帯広の森幼稚園



つじが丘幼稚園



012 青い鳥保育園



緑陽台認定こども園



柳町保育園



駒場認定こども園



012 おびもり



あおいキッズランド



あおいとり
プラス



東土狩保育所・南中音更保育所・西中音更保育所